

## 八街市DX推進計画（案）に対する意見と市の考え方

対応項目

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
- B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
- C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
- D：案に意見の考え方を反映・修正しなかったもの
- E：その他の意見

番号	分類	意見の要旨	対応	市の考え方
1	その他 (要望・ 提案)	<p>八街市のDX推進に向け、市民視点での要望をまとめます。</p> <p>基本方針は、データ・情報・知識・知恵の見える化×共有化×構造化を『コミュニティ』として日々の実装することです。</p> <p>具体的なアイデアは下記です。</p> <p>①メタバースを活用した新たな交流空間を見える化してシェア －学びの広域化，販路拡大，不登校・障がい者・高齢者支援</p> <p>②地域で現在起きている出来事を見える化してシェア －防災，防犯，地域創生</p> <p>③スーパーや病院への交通利用のニーズを見える化してシェアなど。</p> <p>これらの活動が、新たなサービス-新たな連携構造へと繋がっていく土壌形成にもなります。</p> <p>特に、八街市民においてデジタル化、DX化といってもイメージが湧きにくく遠い話題なので、行動として身近に感じられるような取組を積み重ねていくことが大切です。そこで、私たちは八街メタバースを含む毎月開催とやちまた若者サミットの会合にて、全国で既に取り組まれている事例のなかで、八街市民に有効となりそうなものを抽出し市民にヒアリングしています。</p> <p>その活動の中で発展した取組みに2022年10月19日、八街市立</p>	E	<p>いただいた提案については、今後の本市におけるDX推進にあたり、市民の方や民間事業者などが積極的に関与することにより、デジタル技術を身近に感じるいい機会であり、良質な情報をより早く伝達できる一つの手段と考えますので、貴重なご提案として頂戴いたします。</p>

		<p>朝陽小学6年生約90名が、メタバース授業の体験をしました。2023年に中学生となる学生たちに地域に役立つDXについて自分たちで模索するとともに、親御さんにヒアリングする予定です。</p> <p>また今後は、やちまたメタバースへ幼稚園生・小学生・高校生は積極的に全員親子参加を促します。社会現象として、親子が同じITツールを活用していますので（例：どうやったら野球がうまくなるか、などについても同じyoutube動画をみていたり）親子で楽しみながら触れて気づいたらDXしていた、というかたちも進めていきたいです。</p> <p>そして、リアル×メタバースによるハイブリッドなイベントの開催やコンテンツ開発を、具体的な取組として地域で育てていきます。（⇒育てていく流れの中でDXを身近に感じていく）</p> <p>具体的に、インターネットラジオをスタートします。八街内の情報そして市内の各分野エキスパートにMCを依頼、市の困ったことの相談事等、地域飲食店を紹介します。小、中、高の学生達の番組をつくり子供達の学校では教えてくれない技術の学習の場等をつくり地域活性化及び市民活性をしていければと考えます。</p> <p>八街は北区、中央区、南区で分断までいいませんが情報が途切れてることがあり、祭りも八街大祭とはいっても全区域は参加せず北と南は別々に行っています。南は千葉や東金の方が近いので八街駅すら利用しないことも多々見られるようです。</p> <p>そういった情報の分断を無くして情報を一つでも多く流せるツールとしてインターネットラジオという手段を考えています。ラジオという手段を選んだ理由は、1つ目</p>	
--	--	---	--

は八街が車社会であり、映像よりも情報取得の手段の一つとしてカーラジオの情報を聞いている方が多いこと。2つ目は農家の方が軽トラにラジオかけながら流し聞きしながら作業されてる風景を見ていること、3つ目は純粹にインターネットラジオの知識はスマホ1台で行うことができ手法として取りやすかったという点です。

ラーメンフェスですら知らないという人が八街内にいたので大きく告知してもなかなか情報伝達がアナログな街なので少しでも情報が回るようにしていきたいです。

まちづくりの目線では、上記に挙げた暮らす人の利便性や福祉・充実度向上に加えて、定住人口、関係人口の増加について考えると、DXはあくまで目的ではなく手段ですので、まずは定着させるための前提として市内へのインターネット環境の整備（行政によるローカル5G事業者への参入や徳島県神山のようなWiFi網の整備等）を行い、次にDXでこういう事も実現できますよ、という気付きを与える人材は活用、同時に外部人材の活用、そして八街市役所内行政職員の人財育成、市民育成が必須だと考えます。

また、アイデアとして行政としては移住・定住で100%転入してもらうのがゴールかもしれませんが、その手前に年間30日間、あるいは90日間八街で生活してもらう事が可能となるような施策とそれをサポートするDX、ワーケーション環境の整備として子連れのファミリーが上記の二拠点生活（年間30日間、90日間など）をし易いこと、期間限定での学校受け入れやオンライン教育を用意できると思います。都心の利便性に対して劣後している部分を改善するというより、田舎暮らし・スロ

	<p>ーライフを体現できる地域の中で最も都心に近いという優位性を活かすイメージです。八街市役所庁舎がきれいになりましたが、空きスペースがあれば5G オフィススペースにして、IT 企業・ベンチャー企業またはサテライトオフィスを誘致することも検討できるかと思えます。</p> <p>関係人口については、シニアの避寒地としての利用やアジア・オーストラリア圏の外国人も対象になると思えますので、不動産が安い、成田空港が近い強みが活かされます。柔軟な不動産の活用にはDXが多面で活用できます。</p>	
--	---	--